

所内研修③ 指導主事講話

「我が夢は八重瀬を超えて～郷土の偉人 謝花昇について～」

11月16日(月)に所内研修として、佐久本広志指導主事を講師に、「我が夢は八重瀬を超えて～郷土の偉人謝花昇について～」と題して、地域教材の作成と授業への活用についての講話を実施しました。

佐久本指導主事は、平成8年度に後期長期教育研究員として、「主体的に学ぶ学習指導の工夫～謝花昇の教材化を通して～」の研究テーマの元、「謝花昇の生涯」のビデオ教材を作成しました。今回講話を行うに当たって、このことをベースに、当時、お世話になった元東風平役場の浦崎課長から資料を提供していただいたり、「謝花昇生誕150年記念特別展 奸謀の餌となる勿れー謝花昇 沖縄民権運動の先駆者と明治沖縄」を開催している、八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館を訪ね、お話を伺ったりして、新しい資料を準備なされました。

謝花昇の生涯を当時のエピソードを交えながら、身振り手振りを交え、情熱的にお話して下さいました。

現在、東風平運動公園内に設置されている謝花昇の銅像は、謝花の生涯(44歳)を表す44段の階段を昇った高台に、八重瀬岳の方角を見つめて佇んでいるそうです。

【講話の概要】

「我が夢は八重瀬を超えて」郷土の偉人謝花昇について

- 1 謝花昇の生い立ち
- 2 学生時代(学習院大学、東京山林学校、帝国大学農学科)
- 3 県庁時代(沖縄県初の学士、県庁技師として)
- 4 農業の功績(糖業振興、技術指導、農工銀行設立)
- 5 自由民権運動(奈良原繁との対立)
- 6 没後150年顕彰活動(記念講演、記念碑建立)
- 7 地域資源の教材化にあたって(教材としてふさわしいか)



写真1 研修の様子①



写真2 研修の様子②

教育研究員の感想 (研修日誌から)

謝花昇さんの名前は聞いたことがあったのですが、具体的な活躍等詳しく知りませんでした。農民から師範学校へ入るのも困難な時代に、県費留学生として派遣され、その後も県庁の高等官として活躍していたのは、幼い頃に抱いた“学びたいな”という意欲を生涯通して持ち続けたからだと思います。その志の高さには、感銘を受けました。そして、誰にでも学ぶ意欲があれば、学ぶことはできることが言えます。それは、謝花の県知事にでも立ち向かう姿勢から読み取れることで、自分の学びを県民のために還元し、希望を与えたと思います。

また、地域の偉人を知ってもらうために、地元での様々な取り組みの工夫が感じられました。子ども達には、まず知ってもらうことが興味の第1歩かなと思います。子ども目線の施設や興味を引くような配置は、幼稚園の環境構成と似ているなど感じました。

(上原亜矢)

謝花昇さんについては、社会の副読本で知ってはいましたが、どこか遠い存在でした。講話を聞いて、ぐっと近い存在に感じられました。父親に、農家の子は勉強なんてしなくていいと言われながらも、「勉強がしたい！」と母親に訴えかけ、自分なりに勉学に励んだ昇。その熱意に打たれ、ついに両親は、吉村按司に昇を預けます。吉村按司のもとに泊まり込んで勉学に励み、第一回目の県費留学生に選ばれます。その後は、今の東京大学にまで進学し、「日本の謝花」とも言われたとのこと。でも、東京に残らず、愛する沖縄に帰ってきて、県民のために精一杯がんばった昇。私利私欲に走った奈良原知事に対抗し（沖縄のためによりこともした）、「沖縄倶楽部」を立ち上げるほど、沖縄のために人生を捧げた謝花昇の生き方から、多くを学ぶことができました。謝花昇の強い意志と大きな夢、情熱があったからこそ今の沖縄があるのだと感じました。また、昇の才能を認め、応援してくれた吉村按司や上杉茂憲との出会いが、謝花昇の人生を大きく変えたのだと思いました。人との出会いはとても大切であることや、夢をあきらめずに進んでいくことの大切さを子どもたちに伝えていきたいと思いました。そのためには、まず、教師である私が夢を持ち、子どもたちに熱い思いを語っていききたいと思いました。また、物事には多面性があり、色々な角度から見たり、考えたりしていくことの必要性を今日の講話から学びました。

（比嘉頼子）

沖縄の誇る偉人「謝花 昇」さんについて講話をしてもらいました。今までの知識では「謝花昇＝自由民権運動」くらいしかわからなかったのですが、生い立ちからを詳しく聞いて良かったです。まず、八重瀬町の具志頭歴史民俗資料館というものがあることも知らなかったです。謝花さんは沖縄の県民のために自分の地位も捨てて活動したということにとっても素晴らしいと思いました。しかし、孫がいるということは、結婚もしているということで、家族は反対しなかったのか、それとも応援してくれてたのか心配になりました。もし、自分の家族だったら絶対反対するでしょう。それだけ沖縄のことを考えてくれていた人がいたということが嬉しいです。

講話の中で一番印象に残ったのが歴史は一面から見てはいけないということでした。

確かに今日の講話の途中までは「謝花昇」さんがテーマなのでその功績にスポットが当たっていて、知事である奈良原さんは悪という扱いでしたが、実際その知事がいたことで沖縄県の発展もあったので、教材化すると考えた場合、そのことも意識させなければいけないと感じました。これは、今の沖縄県知事と日本政府に当てはめることもできるかもしれません。たとえば日米安保や辺野古の基地問題もただ反対、賛成とかではなく自分の目で見たり、本を読んだりして色々考えていく必要があると思います。伊江島で学んだように、世界に目を向けるだけでなく、ふるさとについて自分のため、また自分の教えている子ども達のためにもっと学んでいきたいと思います。

（久高友弥）

東風平小学校に赴任して2年目になるのに、地域の偉人について無知であった自分が恥ずかしくなりました。”学びたい”という強い意志があれば身分関係なく思いは伝わるということを生い立ちヒストリーから感じました。沖縄県民の自由と生活向上を目指し、改革に努めた謝花が誕生し、一期生として過ごした東風平小学校で子ども達の教育に携わることができることを誇りに思います。

現場に戻ったら、地域の偉人である”謝花昇”の思いや夢を伝え、子ども一人一人に夢を持たせることができ、また、夢を語ることでできる教師でありたいと強く感じることができました。

来年度、6年生を担当するなら「謝花昇ヒストリー」と題して、佐久本指導主事監修のもと、学習発表会等で披露できたらいいなと思いました。教材化するときは、一部だけでなく多面的にものをみるように心がけたいと思います。

（富名腰由紀）

小学校の社会で沖縄の偉人を勉強したことはありましたが、どこか実感がない人でした。今回、生い立ちや当時の社会状況もふまえて講話していただいたので、自由民権運動の父として名前を残した謝花 昇のことを理解することができました。

妹さんの実話や具志頭歴史民俗資料館の浦崎さんの熱意ある、貴重なお話も聞いてよかったです。

東風平運動公園に新しい謝花 昇像があるそうなので、階段44段を数えて昇り、銅像の下にあるモニュメントを見にいきたいです。歴史を知ることは、沖縄のよさを再確認できる機会だと改めて感じました。

（波照間生子）